

教職への扉をひらく 長期インターンシップ

授業研究・教職専門性開発コース
オープンキャンパス（オンライン）

福井大学連合教職大学院

実践力ある 21 世紀の教師を育てる
教職大学院の先端モデル

2026 年 **8 月 17 日(月)** 13:00～15:00

ご希望の方は右記 QR コードから申し込み下さい。



◆当日の予定

13:00 全体説明

- ・カリキュラムの特徴
- ・免許取得について
- ・その他

14:00 現役院生との
座談会

学校で 1 年間週 2～3 日 実践経験を重ねる。＜インターンシップ＞

総体を学ぶ

授業づくり・生活指導をはじめ教職の総体を学ぶ

仲間と学ぶ

仲間や先輩と語り合う週間カンファレンス

充実した支援

学校の現職教師と大学院の教員がチームで支えます

実践と理論のサイクルをつくる。＜実践研究＞

学校での経験をとらえ返し、検討し、問い進める実践研究

教職への歩みを支える。＜就学支援の充実＞

教職大学院修了後の翌年度から正規教員として採用された場合、
日本学生支援機構の第一種奨学金の貸与者は返還免除となります。
詳細は下記リンク・右記 QR コードからご参照下さい。

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/saiyochu/gyosekimenjo/kyouinmenjo.html>



教職大学院先取り履修プログラム

令和 7 年度入学生から、3 年次までに一定の要件を満たした学生を対象に

4 年次に教職大学院科目を先取り履修し、大学院を 1 年間で修了できる制度を導入しています。

連絡先

福井大学連合教職開発研究科（連合教職大学院）
〒910-8507 福井県福井市文京 3 丁目 9-1
Tel. & Fax. 0776-27-9872
E-mail: dpdtfukuiflagship@yahoo.co.jp

入試情報の詳細は、

下記リンク・QR コードからご覧ください。

https://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/essential_point/info_grad/





1年 根建 美紗
(山梨大学教育学部卒)

私はこれまで、山梨大学教育学部で家庭科教育を専門に学んできました。さらに、理論と実践を往還させながら、教員としての資質を高めたいと思い、この教職大学院に進学しました。この大学院の特徴として、学びの拠点が大学ではなく実際の学校現場であるため、目の前の子どもの実態に即して教育や関わり方を考えることができます。また、現場で生じた課題や悩みを週間・月間カンファレンスなどの場で大学教員や院生、現職の教員等といった様々な立場の人たちと語り合うことを通して省察し、その知見を再び実践に生かすことで、より実践的な学びを積み重ねることができます。

私は現在、富山県を拠点に学んでいます。富山県の教育について、様々な地域の教育を踏まえて多角的・多面的に捉えることができるため、自分自身の教育観を広げることができています。理論と実践を結び付けながら学べる、とても魅力的な環境です。皆さんとこの教職大学院でお会いできることを楽しみにしています。



1年 石丸 裕也
(福井大学国際地域学部卒)

私は、福井大学国際地域学部で言語教育について学んできました。交換留学や卒業研究を通して英語という言語そのものの奥深さや、日本語との表現方法の違いに関心を持つようになり、学んだ理論を将来の教育実践に生かしたいと考えるようになりました。学部では教員免許を取得していませんでしたが、教職大学院には免許取得プログラムがあり、学部の学びと大学院での専門的な学修を3年間で両立できることに魅力を感じ、進学を決めました。免許取得プログラムにおける学部の授業と大学院の両立は忙しさを感じることがありますが、大学院のカンファレンスでは学びを他者と共有したり、多様な立場の意見に触れたりする機会が多く、充実した日々を送っています。

また、本大学院の特徴の一つに学校拠点方式があります。毎週学校でのインターンシップに参加し、実際の教育現場を省察しながら理論を構築していく「理論と実践の往還」を経験します。教育学部出身ではない私にとって、子どもとの関わり方やより良い授業のあり方について考える貴重な学びの機会になっています。



2年 渡辺 悠日
(福井大学工学部卒)

私は福井大学工学部物質・生命化学科を卒業し、この教職大学院に入学しました。学部では化学工学を中心に学び、高等学校理科の教員免許を取得しました。高校時代に会った恩師の教育理念に強く影響を受け、「一人ひとりの良さを見つけ、その可能性を伸ばす教師になりたい」という思いから教員を志しました。そして、教科の専門性だけでなく、生徒理解や授業づくりについてより深く学びたいと考え、教職大学院への進学を決めました。

大学院では、長期インターンシップや非常勤講師として実際の学校現場に関わりながら学んでいます。生徒との日々の関わりや授業実践を通して、学部時代には気づくことのできなかった教師の役割や責任の大きさを実感しています。また、週間・月間カンファレンスでは、院生や現職教員の先生方と実践を振り返り、多様な視点から学びを深めることができます。理論と実践を往還しながら学べる環境は、自分自身の教育観を見つめ直し、教師として成長するための大きな支えとなっています。教職大学院での学びを通して、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、「学ぶことが楽しい」と感じられる授業を実践できる教師を目指していきたいと思っています。



2年 稲葉 大晟
(岐阜聖徳学園大学教育学部卒)

みなさん、はじめまして。私は岐阜聖徳学園大学教育学部を卒業し、この教職大学院に入学しました。現在は、岐阜県の岐阜聖徳学園大学附属小学校でインターンをさせていただいています。

教職大学院の特徴はなんといっても、学校拠点方式による長期インターンシップだと思います。実際の学校現場で学び、1人の教員として児童や先生方と関わり、1年の流れを肌で感じる事が出来ます。また、週間・月間カンファレンスでは、同じ立場の院生や様々な校種の先生方と交流し、自分の見方・考え方や視点を広げることができる貴重な機会になると思います。

「もっと研究を深めたい」「教員になる前にもっと学びたい」理由は色々あると思いますが、「1歩」踏み出し、教職大学院に来てくれる仲間を私たちは心待ちにしています。皆さんと学べる日を楽しみにしています。